

# 都心部からも多くの人を訪れる農業公園

柏市あけぼの山農業公園(千葉県柏市)



風車のある「ふれあい農園」は、春には菜の花、チューリップ、夏にはヒマワリ、秋にはコスモスと、季節ごとに花が植え替えられ、詩情豊かな風景を楽しむことができる

## ■ プロジェクト実現のプロセス

千葉県柏市の東北部に位置する利根川近く、桜で有名な「あけぼの山公園」(都市公園)と東海寺布施弁天に隣接する約15haの水田・畑地帯が、市民が活用できる農業公園として生まれ変わった。

きっかけは昭和57年、農業者の研修施設として開園した農業研修センターを、都市住民が自然とふれあえる場、レクリエーションの場として活用してもらおうと、規模を拡大したことに始まる。バーベキューガーデンやアスレチックコースなどさまざまな施設を造り、農業公園として5.5haを整備した。

その後、農家人口が激減し都市近郊の営農環境が厳しくなる一方で、農村風景への憧れが強い都市住民が増えるなどの社会的な背景が誕生。そこで平成元年、自治体の働きかけにより、農業公園に隣接する広大な水田地帯11.7haを利用して、人々が直接土にふれ、農業が体験できる場として

体験農園が計画された。

主な土地の所有者は地元農家で、平成2年より体験農園の用地買収が始まる。それと同時に、体験農園地区の地権者24人が集まって「富勢地区ふるさと農園営農組合」を設立し、体験農園の具体的な計画に着手した。平成4年には市民農園が開園。その後、体験農園や芝生広場などが整備され、平成6年4月「あけぼの山農業公園」はグランドオープンした。風車のある「ふれあい農園」は季節ごとに花が植えられ、特に春のチューリップ祭りは毎年テレビで紹介されるほどの人気となっている。

## ■ 活用した補助事業と管理運営

総事業費は41.9億円。うち、補助金約8.5億円。活用した補助事業は、新農業構造改善事業(国)、都市農業センター設置事業(県)、農村アメニティ形成事業(県)の3つである。完成後の農業公園の維持管理は指定管理者(公社)に委託し、地元農業者から借地した5.45haの地代は柏市が支

払っている。この公園の維持管理費として年間1.25億円かかり、もともと収益性が乏しいため、財政を圧迫しているのが現実だ。

もう一方の体験農園の管理運営は、農地所有者である富勢地区ふるさと農園営農組合が独自に管理運営している。

体験農園内には5×5mの市民農園が620区画あり、一区画年間9000円で柏市民に貸し出されている。一世帯1区画に限定しているが、現在ほぼすべての区画が利用されている。

また、イベント的に農業が体験できる場所として2つの体験農園があり、9月、10月のイモ掘りには近隣のみならず東京からも保育園児や幼稚園児が来て、地元農家と交流しながら農業を体験している。一世帯3500円の参加費を払えば、家族で春の田植えと秋の稲刈りが体験可能。収穫祭にはここでとれた米で作ったおにぎりがふるまわれ、一世帯に5kgの米が渡される。営農組合のこうした活動が、都市と農村が交流していく推進力になっている。

### プロジェクト概要

所在地	千葉県柏市布施地区	ター設置事業、農村アメニティ形成事業	農組合
土地面積	農業公園5.5ha、体験農園9.5ha	事業期間	平成2～平成6年、94年全面オープン
計画地域	市街化調整区域	施行者(事業者)	柏市
土地利用規制	全域農振地域白地指定	その他	農業公園の管理運営は公社、体験農園の管理運営は富勢地区ふるさと農園営
事業手法	新農業構造改善事業、都市農地セン	連絡先	柏市あけぼの山農業公園 ☎04-7133-8877 柏市経済部農政課 ☎04-7167-1143



柏市民に限定して貸し出している620区画の市民農園。夏野菜が元気に育っている



柏市あけぼの山農業公園マップ

平成4年には、近隣の農家で作った新鮮な野菜を持ち寄って廉価で販売する直売所「トマトハウス」(営農組合が運営)が整備され、人気を集めている。最近では近隣だけでなく都心部からの来園者も多く、年間約60万人が訪れている。

## ■ ネック克服と今後の課題

鉄道駅(北柏駅)より2.5kmも離れているため車の利用が多く、駐車場の絶対数が不足していた。特に春と秋の週末は来園者が多いため、2000台駐車できる土地を確保。また人気イベントのチューリップ祭りが開催される4月は、東武バスに協力を仰ぎ、土日のみ柏駅からの直通運行を実施してもらっている。

今後の課題としては、体験農園地区の農家地権者の相続発生により、土地の売却・転用のニーズが発生する可能性があること。また行政的な問題としては、隣接する「あけぼの山公園」が都市公園であるため、農業公園を管轄する農政課とは別の管轄となり、一体的な管理ができていない点である。今後は行政の垣根を越えたひとつの交流拠点として総合的に整備される体制が望まれる。



春のチューリップ祭りは大勢の人でにぎわう(写真提供: 柏市)



親子連れに人気のバーベキューガーデン。レストラン形式の屋内タイプも併設されている

### 土地利用・施設概要

農業公園地区 5.5ha (延床 2,286㎡)		体験農園地区 9.5ha (延床 2,14㎡)	
本館	13,700㎡ (869㎡)	市民農園	24,200㎡
アスレチックコース	4,000	体験農園	23,700
梅園	5,200	(663区画、駐車場55台)	
展示温室	(203㎡)	ふれあい広場	3,000
プラザ	4,500	(駐車場52台)	
加工実習館	(470㎡)	果樹園	8,500
資料館	(707㎡)	ふれあい農園(花畑)	22,000
穴窯	(37㎡)	風車広場(風車)	5,600 (36)
バーベキューガーデン	2,700	トマトハウス(直売所)	1,000 (178)
ふるさと広場	11,200		
竹林	4,600	その他地区	
人工滝、自然林	6,300	散歩道	
駐車場(2000台)		牧草地、駐車場	

※市民農園利用は25～50㎡、年間7500～1万5000円

### あけぼの山農業公園の運営体制

